

平成 17 年度情報経済基盤整備(アジアIT人材育成)

A E Nポータルサイト の運用に関する

報告書

平成 18 年 3 月

特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアム

5. AENポータルサイトの運用（活動成果物の活用推進）

5.1 目的、概要

アジアにおける効果的な人材育成、産業競争力の向上、及びeラーニングビジネスの促進を図ることを目的としたAENは活動を閉じたものとせず、積極的に情報発信を行い、様々な人々の興味を引きつけることによって、eラーニング関連推進団体などのとの連携を目指している。

アジアを含め国際的に、eラーニングが効果的な人材育成の手法として注目されつつある中、今後のアジアにおけるeラーニングの本格的な普及拡大を推進していくためには、eラーニングに関わる最新動向・技術情報などの情報共有、意見交換、普及啓蒙が必要不可欠で、このAEN活動で得たすべての成果物を世界の人々に自由に提供することを目的にしてこのポータルサイトが存在する。

AENポータルサイトがアジア各国間でのeラーニングに関わる最新動向・技術情報などの情報共有の場として有効に機能するために、掲載情報をより新しいものとするための更新作業をしたり、各機能を利用者により快適に利用してもらえるようにシステムの改善を行ったりしてAENポータルサイトの運営を行っている。

本年度は日本語サイトの提供や成果物分類のマルチキー化等の改善を行うことで、利用者対して一層の利便性の向上を図る。

5.2 SCORMビューア、SCORMアセッサ研修コンテンツ等の活用促進

AENの成果物である表題のソフトやコンテンツをポータルサイトから自由にアクセスできるようにした。

（1）SCORMビューアの提供

SCORMビューアはインターネットや学習システムなどのeラーニングに必要なインフラ整備の不十分な環境でもeラーニングが利用できることを目的にスタンドアロンタイプの学習システムとしてOSSの形態で開発されたものである。

この利用効果としては以下の2点である。

- ・他国の開発した各種SCORM対応のコンテンツを学習教材として利用し、自国の技術向上を図れる。
- ・SCORM技術やコンテンツ事例を自由に参照できる等によるeラーニング技術の習得・向上が図れる。

（2）SCORMアセッサ研修コンテンツの提供

SCORMアセッサ資格制度は、日本イーラーニングコンソシアムで定義したSCORM準拠のコンテンツ開発技術者やSCORM適合コンテンツ製品を認証する制度であり、AEN活動の主要テーマの1つとして（WG2）この資格制度をAEN各国へ紹介や展開を推進してきた。

その一環として「制度の理解」と「SCORM 技術者の育成」が必要であり、その学習教材としてeラーニングで学習できる「SCORM アセッサ研修コンテンツ」を開発した。本教材は英語と日本語の2カ国語で作成しており、また音声や演習等により理解しやすいように工夫してある。

本教材は、A E Nポータルの「コンテンツプレゼンテーションサイト」で、ASP サービスを用いて誰でも無償で学習可能である。

したがって、A E N 各国は本コンテンツの利用により、SCORM アセッサ制度や SCORM 技術者を効率的に学習することが出来る。

また、本教材はeラーニングでの提供以外に、テキスト教材としてもすでに開示されている。

5.3 A E N ポータルサイトの活用促進

活用促進のため利用者の利便性を向上させる目的で、今年度は以下の5点で改善を行った。

日本語サイトの提供：

昨年度までは英語のサイトしかなく、国内の一般の利用者からは遠い存在にあったこのポータルサイトを英語および日本語二本立てで運営することで、国内利用者にも自由にアクセスしてもらおうとするものである。

報告書類の英訳およびその開示：

昨年度までは活動報告書が日本語で作成され、それがそのまま開示されていたが、これでは諸外国の利用者の利用が困難であるため、報告書の概要編を翻訳し、英語と日本語双方で成果物を開示するようにした。

コンテンツプレゼンテーションサイトの開設：

eラーニングに関する利用者の重要関心事項としてコンテンツ制作がある。こうしたコンテンツ制作のヒントとして典型的なコンテンツ例を示し、利用者に「こんな作り方も出来るのか！！」といった感動を与えるためにLMS上にこのサイトを構築し、無償で誰でも利用できるようにした。

分類のマルチキー化：

目的的成果物等を検索するのに今までは年度別しかキーがなかったが、今年度は目的別分類キー/国別キーを付加して検索しやすくした。

画面リニューアル：

のマルチキー化と同期して現在の画面を刷新し、より分かりやすく、使いやすいメニュー/マップとした。

5.3.1 日本語サイトの提供

・国内の人にも目に付くように AEN のトップページに下記のように日本語サイトへの誘導マークを置いた。



図 5-1 日本語サイトへのリンク

・ AEN の理解をしてもらうために、何を行っているといった基本的な疑問に答えられるように日本語サイトの表紙ページに以下の説明を作成・開示した。

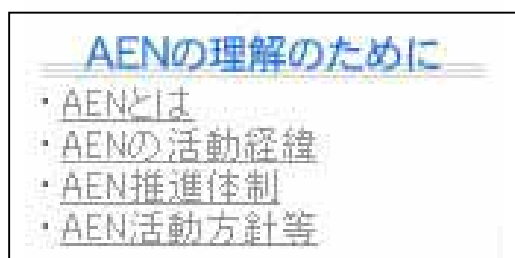


図 5-2 AEN の活動概要紹介

5.3.2 英語および日本語サイトへの成果物の登録

(1) AEN 報告書の登録

2004 年度の AEN 各種報告書を英語および日本語で作成したので、それらを加工し、双方のサイトに登録した。アクセスはこの種の報告書としては非常に高く、ダウンロード件数は下記のように登録開始以来、特に広報は行っていないが、毎月コンスタントに 1000 件を越す件数があり、2006 年 2 月末現在で 5000 件を超えている。

表 5-1 2004 年度和文報告書のダウンロード件数（回数の多い順）

報告書タイトル	9月	10月	11月	12月	1月	2月	集計
eラーニング市場動向および技術動向の調査	24	74	52	53	54	69	326
アジアにおけるeラーニング動向調査	26	50	56	31	51	91	305
「知」に関するITの高度利活用委員会 - eラーニングの近未来像を探る -	24	38	29	23	33	34	181
eラーニングの相互運用性技術と認証制度等（AEN - WG1 / WG2）	13	29	26	17	22	72	179
eラーニングシステム等の運用に係わる専門家育成に必要なスキルセットの策定等に係わる調査（AEN - WG3）	18	21	30	18	38	28	153
eラーニングの専門家に係るスキルセットの開発	17	30	31	14	28	30	150
SCORM アセッサ養成のためのeラーニング教材コンテンツの開発	17	22	35	20	23	28	145
コンテンツ、サービスの品質基準等に関わる調査（AEN - WG4）	19	28	26	20	21	23	137
eラーニングの品質をチェックするコンテンツの開発と実証実験	21	21	31	14	29	21	137
AEN 各国における相互運用性問題や認証制度等に関する情報交換等（ALIVE）の実施	15	15	19	13	14	48	124
スタンドアロンPC対応SCORMビューアの開発	12	23	34	14	18	23	124
SCORM アセッサ制度の国内運用・評価およびAEN 各国への展開支援	13	18	18	16	19	33	117
AEN / AWARDの開催 - AEN 各国のeラーニングAWARDの状況と受賞作品の紹介 -	9	14	22	16	23	30	114
総計	228	383	409	269	373	530	2192

表 5-2 2004 年度英文報告書のダウンロード件数（回数の多い順）

報告書タイトル	9月	10月	11月	12月	1月	2月	集計
e-learning White Paper 2005/2006 (excerpt from chapter 1)	95	51	114	80	65	110	515
Surveillance on e-learning market trend and technical trend in japan	60	39	82	49	74	136	440
Research activities for Quality Assurance item or criteria for e-Learning contents and services	35	33	66	49	33	81	297
AEN AWARD Implementation Report	35	37	60	37	26	60	255
e-learning interoperability techniques and Certification system(WG1/WG2)	29	22	49	33	30	61	224
Research on establishing the skill set necessary for developing professionals who operates e-Learning	26	21	51	35	20	55	208
Development of Skill Set over e-Learning Professionals	21	15	50	32	25	52	195
Development of the SCORM viewer applicable to the stand-alone PC	23	28	48	31	16	45	191
ALIVE REPORT	30	24	39	29	17	40	179
Development of e-learning contents for training SCORM ASSESSOR based on SCORM CONTENT ASSESSOR Qualification Program	18	29	40	28	16	48	179
Domestic operation/assessment of the SCORM CONTENT ASSESSOR Qualification Program and assistance of its expansion into AEN countries	19	18	41	24	11	36	149
Surveillance Study regarding Human Resources Development by utilization of e-learning	30	17	28	21	14	39	149
Development and Pilot Experiment of Contents to Check the Quality of e-Learning Contents and Services	17	14	35	24	12	39	141
総計	438	348	703	472	359	802	3122

人気の高い報告書は和文 / 英文でそれぞれ以下のものである。

日本語サイト：

1 / 2 位は「国内動向調査」と「アジアの e ラーニング動向調査」の報告書であり、3 位に「知」に関する IT の高度利活用委員会報告書というタイトルで「e ラーニングの将来像を求める報告書」が挙げられている。

英語サイト：

「e ラーニング白書」や「日本の e ラーニングの動向調査報告」などが特に人気があり、ついで「コンテンツや e ラーニング運用サービスの品質基準」に関する報告書が続く。特筆すべきは「e ラーニング AWARD」の報告書で日本語では最下位であるが、ここでは 4 位に位置づけられている。

(2) SCORM アセッサテキストの登録

SCORM 認証を行うアセッサ資格を取得するための講習会テキストを同時に開示した。テキストの目次は以下の通りである。

- ・ Chapter1 SCORM アセッサ概要
- ・ Chapter2 SCORM アセッサ制度概要
- ・ Chapter3 SCORM1.2 概要
- ・ Chapter4 SCORM コンテンツ作成方法
- ・ Chapter5 SCORM コンテンツ適合性検査方法
- ・ SCORM アセッサ用語集
- ・ 補足資料
- ・ 参照ドキュメント

全編の一括ダウンロード件数はこの 6 ヶ月間で和文テキスト 70 冊 / 英文テキスト 120 冊となっている。

さらに章単位にダウンロード可能なように分割したものについては和文で 350 件あり、「Chapter4 SCORM コンテンツ作成方法」がこの 6 ヶ月で約 100 件、「Chapter3 SCORM1.2 概要」が 80 件と人気が高く、SCORM 規格の内容と規格準拠のコンテンツの作成方法に興味が多いようである。

英語サイトでの総ダウンロード数は 1000 件に上り、「Chapter3 SCORM 1.2 Overview」が 170 件、「Chapter5 SCORM Content Compliance Inspection Method」と「Chapter4 Creating SCORM Content」が 110 件となった。

(3) その他の成果物

SCORM ビューアや SCORM2004 解説書 / SCORM2004 コンテンツ作成ガイドまた、2005 各種報告書などの完成と同時にポータルサイトへの UP を予定している。

加えてコンテンツプレゼンテーションサイトの開設もあり、代表的なコンテンツが解説付きで e ラーニングの学習形態で確認でき、コンテンツ開発者ばかりでなく、利用者にとっても取り付きやすいポータルサイトに仕上がる予定である。

5.3.3 分類のマルチキー化と画面刷新

AEN ポータルサイトでは AEN カンファレンス資料や成果物をダウンロードできるように開示しているが、その点数が 300 点を超え、現在の年次別キーのみでは目的の資料を見つけるのが困難となってきた。



そこでポータル画面を一新し、分類を以下のようにマルチキー化を行い、目的の資料を容易に検索可能なように改善を行った。

- a . 年度別
 - ・ 2005 年度
 - ・ 2004 年度
 - ・ 2003 年度
 - ・ 2002 年度
- b . 国別 （ AEN 参加国 ）
 - ・ ブルネイ
 - ・ カンボジア
 - ・ 中国
 - ・ インドネシア
 - ・ 日本
 - ・ 韓国
 - ・ ラオス
 - ・ マレーシア
 - ・ ミャンマー
 - ・ フィリピン
 - ・ シンガポール
 - ・ タイ
 - ・ ベトナム
 - ・ AEN 参加国以外
 - ・ AEN 事務局

c . 目的・用途別

- ・ 動向調査
- ・ 相互運用性
- ・ 多言語化
- ・ 認証制度
- ・ eラーニング人材の育成

- ・ eラーニングの品質
- ・ SCORM 規格
- ・ SCORM 関連テストツール
- ・ AWARD(表彰)
- ・ その他

d . 開発品別

- ・ ソフトウェア
- ・ コンテンツ



図 5-4 新 AEN 日本語トップ画面

上記画面で、分類キーワードをクリックすると関連の資料が一覧となって見られ、必要な資料をダウンロードできる仕掛けとなっている。





図 5-5 検索の結果画面例（例：上記メニューでシンガポールを選択する）

また、日本語資料にはタイトルだけでなく、その資料の内容を概説する小見出しを設け、目的にあった資料かどうかを簡単に識別できるようにした。

コンテンツ、サービスの品質基準等に関わる調査(AEN-WG4)	 Download
eラーニングの専門家に係るスキルセットの開発	 Download



コンテンツ、サービスの品質基準等に関わる調査(AEN-WG4)
 [用途分類:品質] [年度:2004] [製作者:AEN事務局]
 eラーニングの品質保証に係る基礎的な概念の普及が急務となっているなか、eラーニングのコンテンツとサービスの市場発展に向け、eラーニングの品質評価項目・基準に関するコンセンサスを形成することを目的とした調査研究を実施した。スケジュール、実施体制など調査概要のほか、「国際WG4」及び「国内WG4」の活動内容、調査により得られた成果と次年度以降の課題などを収録。

 [Download](#)  [Download](#)
 日本語 英語

eラーニングの専門家に係るスキルセットの開発
 [用途分類:人材育成] [年度:2004] [製作者:AEN事務局]
 大多数のAEN参加国では、IDeRに続くプロフェッショナルとして、コンテンツや教育システム等の「開発系人材の育成」に大きなニーズがあると同時に、多様なコンテンツやシステム等の「運用系人材の育成」に対して潜在的ニーズがあることがわかってきた。こうした事情を踏まえ、「eラーニングの専門家全体を対象としたフルスキルセット(職責、タスク、スキルの体系)及びIDプロセス策定」、「eラーニングを効果的に運用する人材のスキルセット策定」という2つの目的を掲げて実施された調査の結果を収録。



 [Download](#)  [Download](#)
 日本語 英語

図 5-6 資料タイトルへの小見出し付加

5.3.4 コンテンツプレゼンテーションサイトの開設

コンテンツプレゼンテーションサイトという新しい趣向(実際に e ラーニングコンテンツを体験できるサイト)で種々のタイプの良いコンテンツを見学してもらうという企画を実現した。(日本語サイト/英語サイト)

このサイトを構築するためには実際、LMSを動作させる必要があるためにASPでその機能を充足させた。

Sample_Contents

Entry to Study

- ① (注1)コンテンツの解説資料について
コンテンツのみではわかり難い知識をコンテンツ解説資料を参照することにより学習できます。コンテンツと併用することにより各コンテンツの内容や仕組みの詳細を理解できます。
- ② (注2)本サイトでは学習の中断/中断点への復帰は出来ません。中断した場合は学習の先頭から開始します。
- ③ (注3)学習者数が定員を超えた場合は学習を開始できません。この場合はエラーメッセージ「人数制限により、ログオンできません。」を表示します。
- ④ (注4)コンテンツ実行に必要なプラグインです。
- ⑤ (注5)ブラウザ動作環境の確認について
ポップアップ禁止を解除してください。[操作の方法](#)を参照してください。

	コンテンツ名称	コンテンツの内容	コンテンツの解説資料(注1)	標準学習時間	必要プラグイン(注4)
1	SCORM 1.2アセッサ研修コンテンツ	SCORM 1.2アセッサ資格取得に必要な知識を習得できます。	なし	10時間	なし
2	SCORM2004コンテンツ作成ノウハウ(少年野球編)	SCORM2004規格対応のコンテンツ作成に必要な知識を事例を用いて習得できます。少年野球の教材を例に説明しています。	下記を参照します 「参照」	1時間	Flash8Player
3	SCORM2004コンテンツ作成ノウハウ(情報処理技術者試験-スキルアップ編)	SCORM2004規格対応のコンテンツ作成に必要な知識を事例を用いて習得できます。情報処理技術者試験教材を例に説明しています。	下記を参照します 「参照」	1時間	なし
4	SCORM2004コンテンツ作成ノウハウ(情報処理技術者試験-スキルチェック編)	SCORM2004規格対応のコンテンツ作成に必要な知識を事例を用いて習得できます。情報処理技術者試験教材を例に説明しています。	下記を参照します 「参照」	1時間	なし
5	eラーニング構築・コンテンツ作成ノウハウ	eラーニングの構築および教育の目的別に効果の高いコンテンツ作成ノウハウを事例を用いて習得できます。	下記を参照します 「参照」	5時間	なし

お問合せ info2@compac.co.jp

図 5-7 解説資料紹介画面(初期画面)

初期画面では提供するコンテンツの内容を紹介している。この解説資料を読んで、各コンテンツを実際例として体験できるのが本プレゼンテーションサイトの特徴である。

コンテンツの項番 2～4 は SCORM2004 コンテンツ制作に関する資料であり、項番 5 は e ラーニング導入からコンテンツ制作までの種々のノウハウ集である。

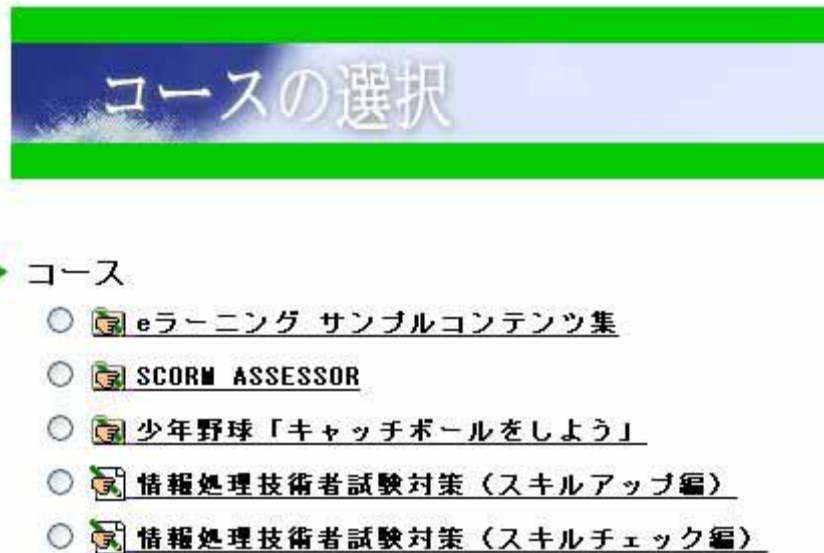


図 5-8 登録コンテンツ一覧

登録したコンテンツは昨年度制作した「SCORM1.2 アセッサ研修」といった本物のコンテンツから、eラーニングのコンテンツの典型的なスタイルを紹介したサンプルコンテンツ集や SCORM2004 を上手く使った「少年野球」のコンテンツなどが存在し、利用者は無償で、ASPサービスを受けてこれらのコンテンツを活用できる。